

菊 会報

第一号

発行・編集

鹿児島県教頭会

〒892-0836

鹿児島市錦江町2-16

鹿児島県公立小・中学校

教頭会会館県教頭会事務局

TEL 099-226-8268

FAX 099-822-5580

会長就任のあいさつ

鹿児島市立紫原中学校

会長 川畑 映一郎

去る五月八日に開催されました県公立小・中学校教頭会委員会において承認をいただき、会長に就任することになりました。県下の教頭先生方のことを思い浮かべ、責任の重さを強く感じております。微力ではありますが、精一杯取り組んでいきたいと思っておりますので、皆様の御支援と御協力をよろしくお願い申し上げます。

本年度の県教頭会会員数は七三九人、うち新任の教頭先生方は七一人です。少子化や学校の統廃合等の影響もあり、近年会員数は減少しております。そのような中、本県の教頭会の運営体制や研究大会への取組、研究の成果等が他県から高い評価を受けていると聞きます。先輩方が地道に積み上げてきたものに

新しい視点で改善を加え、それを検証しながら再度見直していく等々して、創り上げた結果だと思えます。それが学校や地域、児童生徒に還元されるものと確信しております。

私個人の思いで恐縮ですが、昨年度状況を振り返ってみますと、教職員の不祥事根絶を主なねらいとした「信頼される学校づくり委員会」の設置、活用・応用する力も問う内容になった「鹿児島県学習定着度調査」、ネットいじめ防止に繋がる「学校ネットパトロール事業」等が強く印象に残っています。これらはそれぞれの学校が掲げる服務規律の厳正確保や学力向上、生徒指導の充実等に直結するものであると改めて感じました。また、自分の職務を

顧みると、私の目標であった職務の機能化・効率化が十分に果たせなかったこと、生徒指導面で事後対応に多くの労力を使い先手の指導ができなかったこと、授業力向上プログラムの計画の完全実施に苦慮したことが課題として残りました。しかし、困ったときや迷ったときには、教頭先生方と連絡を取り合い、情報を共有したり解決策に知恵を出し合ったりして、何とか前に進むことができたような気がします。今年度はさらにお互いの連携を深め、課題解決のために頑張っていくと決意を新たにしています。

さて、本会では次のようなことに重点を置いて進めてまいります。第一に、第四十八回研究大会が実りある大会となり、会員の皆様が何か一つでも持ち帰ることができ、それらを各校で活用できればと思います。地区の組織や研究体制が従来と変わり、委員・代議員、研修部長、提言者の方々は大変苦労されていると思われまします。しかし、日々職務を遂行しながら準備していただく研究発表は、携わった教頭先生方の努力の結晶だと思います。

第二に、全国大会や九州大会、各種研究会への積極的な参加を通して広く情報を収集し、県教頭会ホームページの充実を図りたいと考えています。幅広く情

報提供を行うことで、会員同士の更なる連携促進に繋がると思うからです。

第三に、教頭の処遇改善に向けた調査活動に努めるとともに、県教育委員会や県連合校長協会、全国公立学校教頭会等の各種団体との連携を強化し、要請活動を進めてまいります。

第四に、平成二十七年の研究大会九州・鹿児島大会に向けた取組についてです。来年度は本県で九州地区公立学校教頭会研究大会が開催され、ほとんどの地区から提言をしていただくことになっていきます。充実した研究大会にするために、今年度から準備委員会を発足し、継続的に打合せや協議等を行うとともに、各地区の委員・研修部長・提言者の皆様と連携を深めながら進めてまいります。

最後になりましたが、さまざまな難局を乗り越えるためには、教頭先生方のこれまでの経験と建設的な意見が必要だと考えております。県教頭会は、今後も広く会員の皆様の声を聞かせていただき、それを生かしながら相互の連携を深め、充実した活動を進めていきたいと思っております。平成二十六年度の各学校における教育活動及び県教頭会研究大会が順調に営まれることを祈念申し上げ、御挨拶とさせていただきます。



○ 随想

目標は、遠きにありて思うもの

鹿児島市立谷山北中学校 三原 秀樹

私には、目標とする教頭像がある。ではない。

それは、初任校でのF教頭である。

私の配置された学校は、お世辞にも

落ち着いた学校というにはほど遠く、

生徒指導に明け暮れていた。職員会議

も紛糾することが多かった。

そうした中、F教頭は校長を守る

という事を徹底して行っていた。

会議でなんとか校長の失言を取り上

げ突っ込みたい職員に対し、F教頭

は会議で校長に一切発言させない手

段に打って出た。ある時は、「校長に

聞いているんだ。教頭には聞いてい

ない。」という職員に対し、「私は、校

長の命を受けて発言している。私の

言葉は、校長の言葉だ。」と一喝した

ことさえある。こうして校長は、会

議で一言も発言することなく一年

を終えた。

後年、どうしてそのようなことが

可能だったのかと尋ねたことがある

。すると、常に打合せを行い、あら

ゆる場面における想定問答を作っ

ていたとのこと。当たり前のことと

言えばそれまでだが、教頭になった

今考えてみるとなかなかできるこ

とではない。

また、こうも言っていた。「私が頑

張れたのは、みんなが手伝ってくれ

たからで、一人だったら無理だった

よ。」と。これもなかなか言えるもの

ではない。

それ以外にも目標とする点は多々

あるが、どれ一つとっても近づけそ

うにない。目標を目指せば目指すほ

ど遠ざかっていく様な気がしてな

らない。目標は、遠きにありて

思うものというところだろうか。



私の勧める一冊の本

教師の資質 できる教師と
ダメ教師は何が違うのか？

著者 諸富 祥彦
発行所 朝日新書

さつま町立泊野小学校
小峯 三朗

五月にあった新任教頭研修会
で原之園教育次長から「県庁の
売店で一番売れている本は何だ
と思いますか。」と質問を受けた。

それは、標記の本であり、しかも

興味を持ったことに、次長のフ

ロアの職員の方々は、ほとんど

購入していないということ

であった。つまり、教育関係でな

い方々も「教師の資質」に関心

を持っていることが伺える。そ

こで、帰宅途中書店により早速

読んでみた。そもそも、教師の

資質とは、どういう意味づけを

しているのだろうかと思ひ、文科

省のHPを開いてみた。すると、

「教員に求められる資質能力と

は、『専門的職業である「教職」

に対する愛着、誇り、一体感に支

えられた知識、技能の総体」と

いった意味内容を有するものと

解され、(途中略)教育者としての

使命感、人間の成長・発達に

ついての深い理解、幼児・児童・生

徒に対する教育的愛情、教科等

に関する専門的知識、広く豊かな

教養、そしてこれらを基盤と

した実践的指導力といった能力
がいつの時代にも教員に求めら
れる資質能力である」と述べら
れている。著者の諸富祥彦先生
は、明治大学文学部の教授で國
分康隆先生を師と仰ぐ上級教育
カウンセラーであり「悩める教
師を支える会」の代表として全

国の学校の問題に取り組み、最
先端の教師像を説いている。こ
の著書では、十八からなる「教
師に求められる資質」が、さまざ
まな問題との関わりで論じられ
ている。第二章「教師を取り巻く
過酷な現状」では、学級経営の困
難さに加えて、数年前から話題に
なったモンスターペアレントを
含む保護者への対応や同僚・管理
職との人間関係の現状から、必要
とされる教師の資質が述べられ
ており、教頭として知っておく
べき内容のものであった。これか
ら管理職の資質を探り、職員一人
一人に自己肯定感を味わせること
ができるようになりたいと思った。

お金でなく、人のご縁で
でっかく生きる

著者 中村 文昭
発行所 サンマーク出版

日置市立吹上中学校
山下 久美子

「何のために働くのか的確な答え
を持って働いている人は少ない。」
「夢を持っていない人は相手が喜ぶよ
うなことを積み上げていけばよい。

仕事は人を幸せにするためにする

もの。」著者は、高校卒業後、何の

目的もなく上京したが、そこで

「師匠」と呼べる方との貴重な出会

いをする。仲間と共同生活をしながら

失敗を繰り返して「師匠」に厳しく

叱責されながら、「人間力」を身に

つけ、人生がドンドン変わっていく

のを実感するのである。

ある時、いきつけの美容院に置

いてあったこの本を何気なく開い

た時、私はドキッとした。読み進

めていくうちに「人の生き方・幸せ」

について深く考えさせられた。

自分に都合が悪くなるとブツブツ

文句を言ってしまう。何かしら言

い訳を考えてしまう。自分自身が

そんな事の繰り返しなのに、目の

前の生徒や職員に「夢を持って生

きなさい」と偉そうに言い続けて

きたのではないか。

その後著者の本を読みあさった。

それだけではもの足らず、全国各地で

それだけではもの足らず、全国各地で

それだけではもの足らず、全国各地で





自由題

平成二十六年六月に想う

南九州市立勝目小学校
犬童 誠司

行っている講演会のCDを聞きまく
り、たくさんの「ハッとする言葉」に出
会ったのである。
「返事は0.2秒(素直な心で
相手の心を掴め)」「
頼まれごとは試され事(相手の
予測を上回れ)」「
「できない理由を言わない(大
抵の事はやらなかった結果)」「
「今できることをやる(とにかく
探して動き出せ)」「
現在、著者は、ひきこもりや
ニートと呼ばれる若者を集め、
北海道で農業しながら生活をす
るというプロジェクトにも取り
組んでいる。人生を楽しみなが
ら、どんどん新しい事に挑戦し
続けている。

この夏、あるご縁がきっかけで、
私も、著者に会える事となった。
素敵な夏になりそうな予感がする。

今年の六月は、日本中がサッカー
ワールドカップで盛り上がった。
日本代表はグループリーグ最終戦
まで予選突破の可能性を残し善戦
したが、二敗一分けという残念な
結果に終わってしまった。

ところで、オリンピックにせよ
ワールドカップにせよ、どうして
四年ごとに開催されるのだろうか。
毎々が無理であれば、隔年または
五年ごとの方がきりがいいような
気がする。四周年で記念行事を行う
ところもないと思う。

しかし、生活を振り返ってみると、
四を一つのまとまりとしてとらえる
考え方が意外と多いことに気付かさ
れる。スポーツでいうと野球は四つ
の塁を回って一点、テニスの一ゲーム
は四点、アメリカンフットボールに
至っては、クォーターバックに四回
の攻撃権、試合時間も四分制。また、
米国では一ドルの四分の一の
クォーター通貨が流通している。
音楽でも四拍子のリズムに、四分音符
が踊っている。

一年は三六五日であるが、地球の
公転周期は三六五日と五時間四十八



分四十五秒である。太陽暦と季節の
ずれをなくすためには四年に一度
調整する必要がある。閏年であり、
オリンピックイヤーである。
そう考えると、四を一つのまとまりと
してとらえる考え方は、わたしたちに
とって生まれながら身につけているも
のなのかもしれない。
勝目小学校四年目を迎えたわたく
しにとっても、今年が良い意味で一区
切りをつける一年としていきたい。

新任教頭雑感

教頭一年生

鹿児島市立桜丘西小学校
田之上 英子

朝の校内巡回時、道向かいの
家から、まだ曲にならないピアノ
の音が聞こえてきます。四月当初
からその音を聞いたたびに、微笑
ましく和む一方で、「教頭一年生」
である頼りなくぎこちない自分
の姿と重なる思いでした。

そのような五月末の日曜、第
三十七回運動会が快晴のもと実施
されました。

新学年に進級したばかりの子
どもたちは、保護者や地域の方々
の大きな声援や拍手のもと、練習
の成果を発揮し、大いに盛り上
がりました。

各係として運営に携わりながら
子どもを見守り指導する職員、
来賓の接待に心を配るPTA役
員や給食技師の方々、校舎内外
の警備を務める主事等の方々、
全体を見通しアドバイスをくだ
さる学校長と、全員で支え合い、
力を合わせた一日となりました。

以前、先輩教諭から「ここに
いる人がその時の『ベストメンバー』
なんだよ」と教えていただいた
ことがあります。

地域の方々と保護者、そして
ここに集まっている職員こそが、
まさに今、この桜丘西小の子ども
たちを育てていくのに必要なベ
ストメンバーなのだと思える
運動会でした。

今年、周りの人たちに支えら
れ助けられた運動会でしたが、
来年はベストメンバーの一員と
して自分の果たすべき役割を認
識し、実践できるようになりた
いと思えます。

六月、朝の巡回中のピアノの
音は、まだ曲にはなっていない
が、両手を使っている練習へと変
化しています。上達しつつある
ピアノの音を励みに、自分も少
ずつでも成長したいと願いなが
ら日々を過ごしているところです。

